

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200047		
法人名	株式会社 高木建材		
事業所名	グループホーム ぼぶら		
所在地	山梨県富士吉田市中曽根1丁目8-25		
自己評価作成日	平成24年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>玄関の施錠は昼間はせず、入居者が外に出たい時は、拘束せず外に出てもらっている。常に入居者のペースでの人らしい生活を行ってもらっている。基本理念である「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者が安全に生活できるように支援している。その中で集団生活を上手に行ってもらっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>4月に開設した2ユニットの新規事業所で木の香りが漂い、天井が吹き抜けでさらにトップライトがあり光が差し込み明るく、家庭的な事業所である。また、共用生活スペースから戸外に続くデッキがあり外気にふれたりいろいろな活用ができる。利用者は趣味の習字や花を生けたりと「出来ること」を活かした生活をしている。家庭的をモットーに利用者の誕生月にはお誕生会があり、全員でお祝いをしている。職員は、基本理念である「目配り・気配り・心配り」を基に、利用者の心に寄り添う介護を目指した支援に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム ぽぷら

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのかかわりを大切にし、地域の方々と共に認知症高齢者の方が安心して地域での生活ができるよう支えあう暮らしとケアを実践している。	地域とのかかわりを大切にし、地域の方々と共に認知症高齢者の方が安心して地域での生活ができるよう支えあう暮らしとケアを実践している。	「目配り、気配り、心配り」「口を出さない、手を出さない、見逃がさない」の基本理念を基に、地域の関係性を重視した支援に努めている。理念は目につく所に貼り、管理者と職員は共有して、利用者の心に寄り添う支援を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板等で地域のことがわかり、参加できるものには参加するようにしている。	地域の自治会に入り、回覧板等で地域のことがわかり、参加できるものには参加するようにしている。	地域住民の一員として自治会に加入している。回覧板等で地域の行事を把握して、参加できるものには参加している。事業所の夏祭りを地域に呼びかけ交流に努めている。また、近隣に住む人達が事業所の見学に来て理解を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちに活かしていきたいが、今現在入居者が落ち着かないため何もできていない。	地域の人たちに活かしていきたいが、今現在入居者が落ち着かないため何もできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、意見等をサービスの向上に向け活かしている。	定期的に会議を行い、意見等をサービスの向上に向け活かしている。	運営推進会議のメンバーは、施設長、管理者、施設運営主任、市担当者、自治会長、民生委員、家族代表で2か月に1回開催している。利用者の現状、ヒヤリハット、徘徊時の対応の取り組み等報告し、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議だけでなく、日ごろから市の担当職員と連絡を取ったりしている。報告も行っている。	運営会議だけでなく、日ごろから市の担当職員と連絡を取ったりしている。報告も行っている。	利用者の入居に関する相談や介護認定調査で事業所に来た時など、現状を伝え日頃から協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロをめざし、介護を行っている。玄関施錠は夜間以外は、開けている。	身体拘束ゼロをめざし、介護を行っている。玄関施錠は夜間以外は、開けている。	月1回の会議の中で身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。スピーチロックについては、その都度、管理者や職員同士で注意をしている。玄関は施錠しないで見守り、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設前に勉強会を開き、職員に徹底した。入浴時等全身観察をし異常が見られたら報告するよう指導している。	開設前に勉強会を開き、職員に徹底した。入浴時等全身観察をし異常が見られたら報告するよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設前に勉強会を開き勉強した。実際後見人制度を利用している利用者があるので活用できるよう支援している。	開設前に勉強会を開き勉強した。実際後見人制度を利用している利用者があるので活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時間をかけて説明し、質問などを聞いて納得してもらっている。	契約時間をかけて説明し、質問などを聞いて納得してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と連絡を取り、意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。	定期的に家族と連絡を取り、意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。	家族が来所した時には、利用者の日常の様子を伝え、来所できない家族には電話で連絡している。家族から出された意見、要望等は職員と話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面接を行い、意見や要望を聞き、仕事がスムーズにできるよう支援している。	定期的に職員と面接を行い、意見や要望を聞き、仕事がスムーズにできるよう支援している。	定期的に個人面接を行っているが、必要に応じてその都度面接をし、職員の意見や要望を聞いている。職員から出された「畳の場所が無いのであった方が良いのでは」という意見を取り入れ実践に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護員同士がコミュニケーションをとれるように食事会等を開いている。	介護員同士がコミュニケーションをとれるように食事会等を開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう勤務等調整している。	研修に参加できるよう勤務等調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、交流が保てるような機会を作るようにしている。	研修や、交流が保てるような機会を作るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること不安なことを把握し、安心して生活できるよう努めている。	本人が困っていること不安なことを把握し、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議を開き、家族の困っていること不安なことを聞き入れサービスに取り入れていくよう努めている。	担当者会議を開き、家族の困っていること不安なことを聞き入れサービスに取り入れていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が日常生活で出来ないことを支援することにより日常生活が送れるよう支援している。	本人が日常生活で出来ないことを支援することにより日常生活が送れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、見守りを徹底し、介護だけではなく、一緒に過ごす時間も作るようにし、利用者との関係を築いていく。	日常生活において、見守りを徹底し、介護だけではなく、一緒に過ごす時間も作るようにし、利用者との関係を築いていく。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係が切れないよう、定期的に連絡をとり顔を出してもらえよう支援している。	利用者と家族の関係が切れないよう、定期的に連絡をとり顔を出してもらえよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人には面会に来てもらえるよう支援している。	なじみの人には面会に来てもらえるよう支援している。	馴染みの美容院等、家族対応で継続支援がされている。入所前の地域の仲間や教え子等多くの人達が面会に来て関係が継続されている。家の周りや公園、知り合いの家に行くなど馴染みの場所の支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いが持てるよう職員が間に入ったりして支援している。	利用者同士の関わり合いが持てるよう職員が間に入ったりして支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終わっても関係性を大切に相談等あった場合は支援するよう努める。	サービスが終わっても関係性を大切に相談等あった場合は支援するよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活リズムを大切に、できる限りその人らしい生活ができるよう支援している。	本人の生活リズムを大切に、できる限りその人らしい生活ができるよう支援している。	入所前のアセスメントで思い・希望・意向を把握をし、本人の気持ちを大事にしている。変化があった場合は家族の要望などに聞いて職員間で話し合い、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームなので、なるべく生活歴が崩れないよう努めている。	グループホームなので、なるべく生活歴が崩れないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握し暮らしの状況を把握できるよう努めている。	心身状態を把握し暮らしの状況を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを開き職員からの意見や要望を聞き、計画などに反映できるよう努めている。	定期的にカンファレンスを開き職員からの意見や要望を聞き、計画などに反映できるよう努めている。	介護計画担当者が計画を立て、毎月のカンファレンスで変化があった場合は、職員から意見を聞いて見直しをしている。また、利用者の個別記録、チェック表を介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録を書き職員が共有することにより、統一した介護や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の記録を書き職員が共有することにより、統一した介護や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症はその時その時に状態が変わり対応も様々になる為柔軟な支援などが望まれるのでサービスの多機能化に取り組めるよう努めている。	認知症はその時その時に状態が変わり対応も様々になる為柔軟な支援などが望まれるのでサービスの多機能化に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている老人クラブ等への参加を心がけていきたい。	地域で行われている老人クラブ等への参加を心がけていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の先生とも顔なじみになれるよう受診の同行をしたりしている。緊急時に対応できるよう関係が築かれるよう努めている。	かかりつけ医の先生とも顔なじみになれるよう受診の同行をしたりしている。緊急時に対応できるよう関係が築かれるよう努めている。	入所前からのかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが不可能な場合には職員が代行するようにしている。受診時に普段の様子を伝え、受診結果の情報は共有している。1名の利用者がかかりつけ医の24時間対応の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に体調の変化等の情報を伝え相談していることにより、利用者が適切な看護が受けられるよう支援している。	看護師に体調の変化等の情報を伝え相談していることにより、利用者が適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院に行き看護師等と情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院に行き看護師等と情報交換を行い、退院後も安心して生活できるよう病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については契約時に時間をかけて説明し、できる限り事業所で支援することを説明し地域の関係者と共に支援できるよう努める。	重度化については契約時に時間をかけて説明し、できる限り事業所で支援することを説明し地域の関係者と共に支援できるよう努める。	開設後で医療連携体制が整っていないが、入所時に支援できることを説明している。終末期に向けての医療連携体制が整い次第、支援できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。	緊急時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	開設前に勉強会を開き、避難通路等確認している。	開設前に勉強会を開き、避難通路等確認している。	開設前に、消防署の協力を経て避難経路の確認、消火器の使い方、スプリンクラーの止め方の訓練を実施した。	緊急時に慌てず確実な避難誘導が出来るよう、夜勤の一人体制を想定した訓練を利用者と一緒に行い、職員同士で意見を出し合い、利用者の安全確保に繋がるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮するよう心掛けている。	利用者の生活歴を理解し、誘導の声かけや言葉使いに注意して、本人を傷つけてしまわないよう対応に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に自己決定できるように心がけている。	利用者に自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ができるよう職員側の都合などを押し付けないようにしている。	その人らしい生活ができるよう職員側の都合などを押し付けないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれができるよう支援している。近隣の美容院に話をし、利用している。	身だしなみやおしゃれができるよう支援している。近隣の美容院に話をし、利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等ができる利用者は職員と一緒にやっている。	食事作りや後片付け等ができる利用者は職員と一緒にやっている。	利用者の好みや苦手なものを踏まえて、献立を工夫している。食材の買い物は、利用者と一緒に近くのお店に行って注文し届けてもらっている。食事作りが出来る利用者は、エプロンを着けて参加、また、盛り付け、片付け等も共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は野菜、肉、魚等をバランスよく取り入れ、水分補給も必要時行っている。	食事は野菜、肉、魚等をバランスよく取り入れ、水分補給も必要時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらいその後職員が必要に応じ仕上げ洗いを行っている。	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらいその後職員が必要に応じ仕上げ洗いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録票を参考に、時間での誘導等を行いなるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄記録票を参考に、時間での誘導等を行いなるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄チェック表を基にパターンを把握し、時間誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでもらい、一週間に一回はヤクルトかジョアを提供している。	毎朝牛乳を飲んでもらい、一週間に一回はヤクルトかジョアを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく利用者の希望に沿った入浴時間で入浴してもらっているが、場合によっては利用者に沿わない時があるがなるべく浴よう支援している。	なるべく利用者の希望に沿った入浴時間で入浴してもらっているが、場合によっては利用者に沿わない時があるがなるべく浴よう支援している。	毎日入浴が可能である。利用者の希望で午前、午後、夕方、入浴したい日、時間等要望に合わせて入浴することができる。好みのシャンプーを持ってきて使用している利用者もいる。季節のゆず風呂を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あんず)	ユニット名(かりん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は一応決まっているが、生活状況に応じ気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は一応決まっているが、生活状況に応じ気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を把握し、症状の変化を把握確認し家族などに報告している。	服薬状況を把握し、症状の変化を把握確認し家族などに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が楽しく過ごせるよう、一人ひとりのあった役割や気分転換ができるよう支援している。	毎日が楽しく過ごせるよう、一人ひとりのあった役割や気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等行きたい人には、職員と一緒にいつでも行けるよう心掛けている。地域の人の協力も得ている。	散歩や買い物等行きたい人には、職員と一緒にいつでも行けるよう心掛けている。地域の人の協力も得ている。	近くのお店におやつや花を買いに行ったり、近所を散歩したりと利用者のその日の希望に沿って、戸外に出かけられる支援に努めている。また、普段は出掛ける事の出来ない場所への外出を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金制度を設け必要時職員が同行し、必要時希望のものが買えるよう支援している。	預かり金制度を設け必要時職員が同行し、必要時希望のものが買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	落ち着いている利用者さんには、電話や手紙のやり取りを行っています。	落ち着いている利用者さんには、電話や手紙のやり取りを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕、納涼祭等を開き季節を感じていただいている。	七夕、納涼祭等を開き季節を感じていただいている。	木の香りが漂い、天井が吹き抜けになっていて光が差し込み居心地の良い場所となっている。壁には、利用者が書いた習字やお誕生日会の写真等が飾られている。台所も対面式になっていて、調理する音や匂いを感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ等を使用したりして、思い思いに過ごせるよう配慮している。	デッキ等を使用したりして、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人の使い慣れたものを置いてもらい、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室に本人の使い慣れたものを置いてもらい、心地よく過ごせるよう工夫している。	収納クローゼット、レースのカーテン、ベッドは備え付けてある。思い出の写真やギターなどが持ち込まれ、それぞれの利用者の好みの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誕生日会の写真を貼り、常に自己確認をしている。食事の手伝いや食後の食器の片づけなど自主的な参加をさせていただいている。	誕生日会の写真を貼り、常に自己確認をしている。食事の手伝いや食後の食器の片づけなど自主的な参加をさせていただいている。		